

## Ⅱ 「とちぎの子どもを育む地域づくり」の実践事例について

## 子どもの居場所・大人の集う場所、そして地域をつなぐ場所

### ちいきねっとわーくせんたー「ごえもん」 (宇都宮市：横山町)

#### スタッフ構成

宇都宮市横山町地域住民 28 名



#### 主な活動

- (1) 子どもの居場所としての事業・活動
  - \* 自由空間として、地域の子どもの居場所を子ども主体につくりあげる活動を実践している。
    - 【①駄菓子屋の運営 ②体験活動の企画・実施】
- (2) 多世代交流の促進・支援
  - \* 子どもの居場所づくりは、大人の居場所づくり、まちづくりそのものである。少子高齢化の時代、子どもたちを核にして、お年寄りからあらゆる世代の人がかかわり、子どもたちを見守る、ネットワーク、まちづくりを目指す。
    - 【①センター常時開放 ②雑貨・食品等の販売】
- (3) 人材の育成
  - \* 運営及び事業の実践に関わるスタッフやリーダー人材の養成・研修をするプログラムを企画実施
    - 【①スタッフ研修 ②ジュニアリーダーの養成】
- (4) 地域の各団体との交流・連携
  - \* 地域の各団体の交流・連携を図り、各団体の個性や地域特性を生かしながら、連携・協力することにより、さらなる各団体の活性化を目指す。関係団体への活動支援をし、活動の輪を広める。
    - 【①子ども会等の団体との交流・連携・支援実施】

#### 立ち上げの経緯

##### 横山町の概要

- \* 自然がいっぱい
- \* 居場所がない

子どもたちに自然あそびや自由遊びをさせたい。

大人も集い、地域みんなで子どもをはぐくみながらつながりをもちたい。

有志で「ちいきねっとわーくせんたー」を立ち上げた。

#### 継続・充実のためのポイント

##### 継続のコツは…？

【その一】  
子どもも大人も「自由」ということを最も大切にしている。

【その二】  
楽しいことをお互いにできるように、協力ややさしさを大切にしている。



##### 課題の克服は…？

【その一】  
いつも「ごえもん」の真ん中のテーブルには子どもも大人も集まって食べたり飲んだり話したりしている。

【その二】  
自由な時間に、好きなだけ活動している。

【その三】  
スタッフとして働くと「ごえもん通貨」がもらえて、それでおかずや野菜を買って帰れるので助かっている。

##### 予算は…？

活動する経費の大部分をごえもんスーパーの売り上げからまかなっている。  
さらに、国の地域子ども教室の予算も利用して運営している。

だから、地域の皆さんにたくさん買って頂かないと運営がたいへんなんです。

『駄菓子屋の運営』



\*この居場所・遊び場は「ごえもん」というお店の売り上げで運営しています。子どもたちもみんなよく知っていますから、お店が混んでいる時は、子どももレジ打ちや袋詰めを手伝います。地域の大人は、子どもたちがレジ打ちを間違えたり遅くなったりしても、みんながあたりかたく見守ってくれたり教えてくれたりしています。

\*お年寄りの方が買い物をしに来た時は、ごえもんにいる友だちは、かごを持ってあげて一緒に買い物をする。重いお米やジャガイモを買ったりしたときは、家まで持って届けてあげたりもします。大人も子どもも地域の人みんなから必要とされています。だから、本当は「要場所」っていうのかも。



『子どもの居場所・大人の集い』



ごえもんの真ん中にあるテーブルには、いつも人が集まっています。おしゃべり、お茶のみ、いろいろです。たくさんの方がここに集まってきては、話したり活動したりととても大切な場所となっています。みんなが「自由」を大切にしています。

『休日を利用した子どもまつり』

楽しい企画も運営も子どもたちです。もちろん、賞品などもたくさん用意して。いろいろな学年の子どもと一緒に遊べるとても楽しい企画がたくさんあります。



大人と子どものすがた

スタッフは…？

「ここで子どもと過ごしたりお店を手伝ったりすると、気分転換になっていい！」  
 「地域の大人と子どもと多くふれあえることと、いろいろな情報交換ができることが楽しい！」

子どもたちは…？

「ごえもんは、自由に好きなことをして過ごせるから楽しい！」  
 「いろいろなことを手伝うと、大人の人からありがとうと言ってもらえるので嬉しい！」  
 「たくさんの友だちが集まってくるので、いろいろな遊びができて楽しい！」

地域の大人たちは…？

「安心して子どもたちが集まって遊べる場所があるので助かります！」  
 「新鮮な地の物が手にはいるので便利になった！」

地域全体は…？

「地域の子どもの様子や大人の様子が分かるようになってきた！大人同士の知り合いが増えた」  
 「ごえもんで子どもたちがいろいろな体験をできるようになった！元気になってきた！」

## 大人の力を結集して、地域の子どもたちをはぐくむ

### 見せてやる さわやか子ども広場

陽南中おやじの会（宇都宮市：陽南中学校区）

#### スタッフ構成

陽南中学校区の大人約 20 名

#### 主な活動

- (1) 学校の教育活動環境の整備  
\* コイヘルパスで全滅してしまった池を掘り起こして、新しい池を手作りで完成させた。
- (2) 陽南中学校の子どもたちとの交流活動  
\* 「おやじチームと勝負しよう」ということで、月に 1 回程度、いろいろな運動部を相手に、本気で試合を行っている。
- (3) おやじと語る会  
\* 子どもと父親が一緒になって意見を交換しあう場。

#### 立ち上げの経緯

「栃木の子どもをみんなで育てよう」運動地域フォーラム（地域の大人で子どものことを話し合う会）をきっかけに、大人がもっと進んで子どもとかかわりをもとうということによって立ち上げた。少しずつ参加者が増えてきた。

#### 地域フォーラム

・子どもたちとの交流の  
必要性

我が母校のために、子ども  
たちのために、何かできる  
ことはないだろうか？

「おやじの会」を立ち上げて、  
子どもたちとの交流を。

#### 継続・充実のためのポイント

##### 継続のコツは…？

【その一】  
参加する自分たちが「楽しく」  
やることを第一に。

【その二】  
こどもとのふれあい活動を本気  
で楽しみながら進めていくこと。



##### 課題の克服は…？

【その一】  
「集まっては、いろいろな話を  
しています。時々、お酒を飲み  
ながらの話もとてもいい情報交  
換の場になっています。」

【その二】  
「やっぱり、おらが学校という  
母校愛に駆り立てられる部分が  
大きいです。自分もお世話にな  
った学校、子どもたちがお世話  
になっている学校に恩返しをし  
たいという気持ちも大切です。」

##### 予算は…？

国の地域子ども教室の予算を利用  
して運営していますが、子ど  
もとの会食には予算がないので、  
その都度参加した大人が負担し  
あって賄っています。

だから、会員に限定せず、そ  
の都度自由参加してくださる大  
人をどんどん増やしていきたい  
ところです。





## 活動例

### 学校の池を新しく作ろう



役割分担を上手にして、準備する物もみんな自分たちで手配。水が漏れないようにするとところが一番の難所でした。

### ピッチャーマウンドも作っちゃおう



土を入れ替えて、立派なマウンドが完成しました。最後の土堅めは、子どもたちと大人が全員で力を合わせたの共同作業です。

### 『野球対決・本気で勝負』

本日は、野球部が対戦相手です。あいさつから始まりますが、既にお互いに本気モードです。



### 来年入学する6年生を招いてドッジ大会

6年生を招待して一緒にドッジ対決です。このあと部活紹介などをして楽しく交流しました。



### みんなでバーベキュー



子どもたちも一番楽しみにしている時間です。一緒につくって、一緒に食べる焼きそばやカレーはとてもおいしいです。おかわり続出です。

### おやじと語る会



お父さんたちが、陽南中学校にいたころの話をしてあげると、子どもたちも食い入るように聞いていました。大先輩たちの話は、子どもたちの背中を押してくれていることでしょう。

## 大人と子どものすがた

### スタッフは…？

「とにかく、子どもたちと共に活動して自分たちで楽しんじゃいましょう！」

「我が母校は、いくつになっても懐かしいです。だからどんなことでも協力したくなっちゃうんです。」

### 子どもたちは…？

「本気で、お父さんたちと試合ができるのは楽しい！いつも、いい勝負になります。」

「お父さんたちと協力して、いろいろなことをやったり、一緒に食べたりして学校が楽しかった！」

「PK合戦では、周りでみんなが見ていたので、すごく緊張した！」

### 地域の大人たちは…？

「我が母校のために活動してくれる人たちがいる。自分も今度参加してみたい！」

「自分たちの地域の中学生を、もっと大人たちがかかわってよくしてあげたい！」

### 地域全体は…？

「陽南中学校のことだけでなく、区内にある小学校での活動にもおやじの会のお父さんたちが活躍してくれました。小学校でのお化け屋敷やキャンプも実施できました。」

## 子どもと大人が何でも話し合える活動・交流の場をつくる

### N' 大人と子どもを考える会 (日光市：日光地区・安良沢小学校区)

#### スタッフ構成

N' 大人と子どもを考える会 4名

#### 主な活動

旧日光市内の子どもたちへアンケート実施 (平成 15 年 8 月 25 日実施)  
 ・旧日光市内の小学 6 年生と中学 2 年生を対象に、大人をどう思っているかなどのアンケートを実施。



「思いっきり言ってごらん!! 大人と子ども ~子どもたちを考える大人の集い~」実施

【日 時】 平成 15 年 9 月 22 日 (月)  
 【場 所】 日光市中央公民館 (現日光市日光公民館)  
 【参加者】 旧日光市内の大人 (82 名)  
 【内 容】 ①子どもたちアンケートから感じたこと  
 ②地域での教育、子どもとの接し方 など



大人の集いでの意見ダイジェスト版の作成と子どもたちへの配布 (平成 15 年 10 月 22 日実施)  
 ・大人の集いで出た意見をダイジェスト版にして、アンケートに答えてくれた子どもたちに配布。  
 また、子どもたちからの返事も期待し、返信カードを同封しておく。(88 名からの返信)



「思いっきり言ってごらん!! 大人と子ども ~子どもたちを考える大人の集い パートⅡ~」実施

【日 時】 平成 15 年 12 月 16 日 (火)  
 【場 所】 日光市総合会館 (現日光市日光総合会館)  
 【参加者】 旧日光市内の大人 (33 名)  
 【内 容】 ①子どもたちからの返信カードからの感想 (全体協議)  
 ②大人として子どもたちのためにできること(グループ協議)→交流活動へ



大人と子どもの交流活動の実施

#### 立ち上げの経緯

##### (1) 活動への思い



ひと昔前までは、どの家庭にも、家族や近所の人たちが集まる茶の間がありました。日光に大きな茶の間を作りたいわ。

##### (2) 立ち上げの工夫

“N' 大人と子どもを考える会”のNは“日光”の略。まず、日光の子どもたちが大人をどう見ているかのアンケートをしました。その後、「子どもについて語る大人の集い」を開催し、みんなで意見交換をしてから、大人と子どもの交流活動を始めました。



#### 継続・充実のためのポイント

##### (1) 子どもの正直な声を聞くために、アンケートを実施する。

・今の子どもが大人をどのように考えているか、正直な考えを引き出せるよう、各学校の協力のもと、旧日光市内の小学校 6 年生と中学校 2 年生を対象にアンケートを実施した。  
 ・そこに出てきた子どもたちの声をもとに、「子どもを考える大人の集い」を実施し、文章を通じての交流を図った。

##### (2) 子どもを考える集い等で協力者を募る。

・子どもを考える集いを通して、地域での教育の重要性を再認識し意識の高まったところで協力者を募った。  
 より多くの人が子どもとかかわるきっかけをもつのに効果的だった。

##### (3) 地域の組織・人(自治会・育成会・学生リーダー等)と協力して活動をつくる。

・地域内の子どもと大人を交流させるには、地域内の自治会や育成会等の関係者と協力して活動を考えると、活動の趣旨の浸透や多くの参加者を募れるという点で効果的だった。また、大学生や高校生のリーダーは、諸活動の中心になると同時に、小・中学生と大人を結び重要な役割を担った。

※ 大人と子どもの交流活動は、平成 17 年度から地元の自治会が中心となり行っている。

## 活動例

### 「味くらべすいとん大会」の実施

- 【日 時】平成16年3月6日（土）  
【場 所】日光市福祉保健センター（現日光市日光福祉保健センター）  
【参加者】日光市立安良沢小学校校区住民、学生リーダー、日光市立安良沢小学校職員（130名）  
【内 容】①すいとん作りのための作戦会議 ②すいとん作り  
③ふれあい会食 ④交流味くらべ ⑤表彰セレモニー



- ・地域の大人と子どもがより深く交流できるよう、実施地域を小学校区とし、校区内の自治会・育成会関係者に協力を依頼し活動をつくる。
- ・子どもと大人の混合班での活動とする。大学生・高校生リーダーを中心に話し合い、子どもと大人が協力しすいとんを作る。
- ・自分たちで作ったすいとんと、他の班のすいとんを食べくらべるなど、より多くの交流が生まれるよう配慮した。

### 「みんなでみんなの雑木林をつくろう」の実施

- 【日 時】平成16年7月17日（土）  
【場 所】安良沢小学校周辺の雑木林  
【参加者】日光市立安良沢小学校校区住民、学生リーダー、日光市立安良沢小学校職員（140名）  
【内 容】①雑木林づくり  
・ササ刈り ・木を切る、枝打ち  
・カブトムシのすみか作り  
②みんなで遊ぼう  
・ターザンごっこ ・手作りブランコなど  
③夕食（雑木パヤシライス）  
④キャンプファイヤー ⑤きもだめし



- ・自分の住んでいる地域にある雑木林を修復して、きれいな環境をつくっていこうという趣旨のもとに活動を展開した。
- ・草木が伸び放題となった雑木林の整備・修復に、数年かけて取り組んでいく。
- ・薄暗かった雑木林が、子どもの遊び場に変身した。

## 大人と子どものすがた

### 大学生活動ボランティアは…？

「今も昔も、子どもは変わっていないのではないのでしょうか。大人が子どもたちに『現代っ子』という勝手なイメージをもってはいないか。私は活動の中で、2人あやとりのとり方、折り紙のやっこさんの袴の折り方を子どもが大人に教えている姿を見ることがありました。活動に参加し、新たな人のつながりを感じました。人とふれあう、つながるといのは、世界が広がることで、楽しいのではないのでしょうか。人が集まるだけ、その楽しみは大きくなると思います。」

### N' 大人と子どもを考える会のメンバーは…？

「私は高校生のとき、ボランティアリーダーさんに出会った。その経験から、大人と子どもの活動をやっていくにあたって、今の若者たちにも声をかけてみたくなった。周りには、無理じゃないか、と言う声もあったが、話してみると『やります』『やりたい』『友だちも誘っていいですか』との答え。そして、一緒に活動へ。今後も、この若者たちが積極的に活動して行ってほしい。」

何かの活動をしようとするとき、対象を広範囲でなくピンポイントで考え、最初の活動をそのポイント地区の自治会・子供会育成部と相談しながらやっていく。そうすることによって、その地区の活動へと移行される。継続されながら地区のいろいろな人たちのかわりの中で、独自の活動をしていってほしい。私は、この二つが同時に育ってくれることが理想だと思うし、願っている。」

この活動は、翌年に組織された安良沢小学校区自治会連絡会に引き継がれ、現在も地域の恒例行事として行われています。また、この取り組みを参考に、小倉山地区、清滝地区でも大人と子どもの交流活動が行われるなど、他の地区でも盛んに行われるようになっていきます。

